

サーキット・ライダー 2004 年 12 月号

クリスマス狂想曲

Stille Nacht, heilige Nacht! Silent Night, holy night...

聖しこの夜、星は光り、救いの御子は馬舟の中に眠りたもう、安らかに。

きよしこの夜 讃美歌 21、264 番

ここアメリカでも商店街は感謝祭が終わると即日クリスマスに模様替えしセールを開始します。1 年で最大のセールス・キャンペーンをする風潮は例年高まり、益々クリスマスが商業化していき何だか悲しくなります。それでもまだ救いなのは 24 日の夜から 25 日にかけては中華街、ユダヤ人街以外はお休みになることでしょうか。一方、日本でもこの時期は全く日頃は宗教に関係ない人々がこぞって「メリー・クリスマス」などと言ってパーティーに興じたり、訳も分らず商店街ではクリスマス・キャロルやクリスマスに因んだメロディーが流れています。イルミネーションやクリスマス・ツリーなどもかつてはアメリカでの華やかさに感動さえしたのですが、今や日本でもあちこちに見られるようになりました。嬉しいような嬉しくないような・・・。

アメリカの大学で使用する世界史教科書、東洋史教科書などには日本の文化を “The Culture of Borrowing and Adaptation” 「借りて取り入れる文化」と形容しています。日本は政治的危機、国の存亡に関わる重大事に見舞われた事が歴史の中で 3 度あったとそれらの教科書は書いています。その一つは飛鳥時代、聖徳太子の時代の隋王朝の圧迫。二つ目は明治開化。三つ目は第二次世界大戦の敗北。敢えてもう一つ加えるなら戦国時代のヨーロッパ勢のアジアへの侵攻でしょうか。最初の危機には超大国隋からの侵略を免れ対等な外交のできる国と認めてもらう為、聖徳太子は隋の政治制度を取り入れ、仏教を奨励、にわか作りではありましたが国家の体制を築き上げ難を乗り越えています。実はこの時だけ外見だけでなく中身、つまり中国の文化、儒教、仏教、漢語などの教えを日本は取り入れています。そして中身が日本の文化として定着しました。

あとの 2 回の危機の折には、全くとは言わないまでも日本は外見だけを取り入れました。明治には西洋列強国に「追いつけ追い越せ」と富国強兵政策を取り、西欧文化を制度を導入しましたが、その中核であるキリスト教の教えは取り入れませんでした。東京帝国大学なども実はキリスト教を排斥するべくダーウインの進化論、その影響を受けたスペンサーの社会進化論を奨励するべく設立されました。（保坂清 1989 年、フェノロサ、東京：河出書房）それだけではありませんが、キリスト教はハイカラな宗教として知的階級や中流以上の宗教、学校教育に力を入れる宗教として定着してしまいました。また第二次大戦の敗戦後、一時的にアメリカ・ブームが巻き起こり、国際基督教大学などアメリカの教会の援助によって創立されたり、教会の伝道も活況を呈しましたが、それも長続きしませんでした。ただクリスマス・ツリーやクリスマス・ケーキという形だけが定着し今日に至っています。

やや下火になったようですが日本にゴスペル・ブームが起こった時「教会、宗教と関係ありません。」「歌だけ歌えます。」と言った愚かな宣伝文句があったと聞いたことがあります。ゴスペルとは福音、良き知らせ。「イエス・キリストの救い」そのものであり、聖書の福音書を指します。アフリカから連れて来られ奴隷として虐げられた黒人たちが、それでも神の救いを信じて、歌い続けてきたのがゴスペルです。それから宗教性を除いてしまったら、一体何になるのでしょうか？救いに預かった喜び、神を称えて聖霊に満たされ涙するから、聴く側も感動するのですが、単に格好だけを真似て、イエスを信じてもないのに Halleluiah（ハレルヤ）！Jesus（イエス）！と歌って感動に涙を流している姿を見ると、二の句が告げません。「形だけ、真似っこはいい加減にして下さい。」と言いたくなります。（言ってますね、十分。）

冒頭のドイツ語、英語は「きよしこの夜」の初めの部分です。日本語の訳、聖しこの夜もいい訳だと思いますが、オリジナルのドイツ語と英語訳は「静かな夜、聖い夜」と歌っています。本来、クリスマスは誰も知らない間に起きた出来事、静寂に包まれた夜の出来事でした。最初のクリスマスに登場するのは母マリア、父ヨセフの他、羊飼いや、遠くから来た博士達だけで、イスラエル中の人々は何も知らず、馬小屋はひっそりと静まり返っていました。そんな中で母マリアがイエスに授乳し、父ヨセフが見守る。これは貧しくも温かい夫婦、親子の物語です。私たちも、そのことを覚えてクリスマスの礼拝を守れればと願っています。メリークリスマス！

吉松 純

***礼拝：午後4時。Jr.教会（教会学校）：午後4時時、礼拝に出席後、分級に進みます。**

***祈りたい方の為に礼拝堂を午後3時30分より開放しています。どうぞご利用ください。**

***聖日予定：**

12月 5日：アドベント第二礼拝午後3時より。礼拝後、午後4時よりグリーンング教会飾りつけ。午後6時より簡易夕食会。

12日：自由祈禱会、Jr.教会、アドベント第三礼拝。司会：荒美俊三兄。

19日：自由祈禱会、アドベント第四、及びクリスマス聖日礼拝。礼拝後、持ち寄りで祝会。

24日：午後7時より、日本語クリスマス・イブ礼拝。午後9時より、英語キャンドル・サービス礼拝。

26日：自由祈禱会、Jr.教会、礼拝。司会：荒美和子姉。

2005年

1月 2日：自由祈禱会、Jr.教会、礼拝。礼拝後、餅つき大会。

***集会、行事予定と報告**

4日（土）午前10時から午後3時まで、教会ジムにてバザー。皆様の協力が必要です。当日のみでなく、前週から毎日準備の為人手が必要です。お手伝いくださる方は吉松牧師まで。

10日（金）午後7時30分より、聖書研究会、日本語オフィス。

18日（土）午後3時15分より、クリスマス・キャロリング。Park Ridge の Plaza 老人ホームに集合、そこで讃美をした後、アメリカ人の教会員のお宅を数件訪問して讃美します。讃美後、教会でスープとパン、デザート夕食を共にします。どうぞご参加下さい。

***12月はクリスマス特別行事優先の為、この他の集会は休会となります。御了承ください。**

***御協力お願い致します。献金の宛名は UMC-JA でお願いします。**

*クリスマス献金をお願いします。日本語ミニストリーの伝道活動に遣います。

*新潟中越地震の被災者の方々への救援献金をお願いします。現地の教会を通して被災者の方へ送ります。

*ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。

*使用済み切手を集めています。ご協力下さい。消印のついた切手の周り1センチくらいの余白を残して切とって下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会（J O C S）に送ります。J O C Sは切手を換金し得られた収益金で海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。

*H O P E（The Heart of Pediatric Electrophysiology）というボランティア団体にもご協力下さい。

Electrophysiology という特有の心臓病を患う子供を救う為、寄付金を募り患者や家族に送ったり、病院などの情報交換をしています。募金を下さる方はあて先をH O P Eとしてください。

*昨年よりケニアの恵まれない子供達やエイズの患者さん為に特別献金をしています。ご協力下さい。

連絡先：英語オフィス（201）391-5499 日本語及びファックス（201）505-0347

ホームページ：<http://umc-japan.org> 吉松牧師宅 （201）391-2208 pastor@umc-japan.org

教会学校担当：松尾孝恵姉 （201）802-1769 takae723@hotmail.com